

第1回香美市社会教育委員会議事録

日時 令和6年6月14日（月）14時00分～

場所 中央公民館 2F

参加者 佐々木委員長、斉藤副委員長、近藤委員、永野委員、濱崎委員、福田委員、信崎委員、杉本委員、宮地職務代理、中山次長、小松生涯学習振興課長、松岡図書館長、山重統括官、植田公民館長、依光文化財室長、正木推進官、宇根文化班長、影山スポーツ班長

宇根班長

それでは定刻となりましたので、令和6年度第1回香美市社会教育委員会を開会させていただきます。本日はお忙しい中、お越しいただきありがとうございます。私は事務局を担当します生涯学習振興課の宇根と申します。よろしくお願いします。会の開会にあたりまして香美市教育長職務代理者 宮地憲一より一言ご挨拶を申し上げます。

宮地職務代理

みなさん、こんにちは。教育長職務代理者 宮地でございます。教育長がおりませんので新しい教育長が決まるまでは私が代理を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

みなさんにおかれましては、令和6年度第1回香美市社会教育委員会へお集まりをいただきまして本当にありがとうございます。また、この度は皆様方に新たな社会教育委員をお願いしましたところ、ご快諾を賜りまして本当にありがとうございました。ご承知の通りでございますが、第二期の香美市教育振興基本計画が3月に出来上がりまして・・・大変立派なものができると思います。・・・学校教育、保育園から生涯学習、社会教育までいろいろな計画がございまして、この教育振興基本計画に沿って教育行政を進めていきたいと思っております。本日はそういった観点から振興基本計画の社会教育、生涯学習面についてのご意見を頂戴したい、そしてご協力を頂きたいということでございます。もう一つは、香美市の図書館かみーるの運営方針、それに基づく運営計画についてもご意見を賜りたいと存じます。主にこの二つが大きな議事です。どうか皆さま方におかれましては2年間ではございますけれども、よりよい香美市の教育のためにお力添えを賜りますようよろしくお願いいたします。

宇根班長

ありがとうございます。初めに皆さまへの委嘱書の交付ですが、時間の関係もあり、あらかじめ皆さまのお席に委嘱書を配布させていただいておりますことで、たいへん失礼かと存じますが、委嘱書の交付に代えさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。任期は、令和8年3月31日までとなっております。どうぞよろしくお願いいたします。まず、お配りしております資料の確認をさせていただきます。

（資料の確認）

続きまして、初回会議のため、恐れ入りますが自己紹介の時間をいただきたいと思います。

す。事務局から右回りで始めさせていただきます。

(自己紹介)

宇根班長

ありがとうございました。なお、本日はご都合により欠席されていますが、山田高等学校の市原校長、体育協会副会長の楮佐古理枝さん、香美市小学校校長会会長 森田校長がおられますので、ご報告いたします。

それでは、まず初めに本会議の成立についてご報告させていただきます。本日は全委員 11 名中現在 8 名の委員のご出席をいただいております、委員の過半数の出席がありますので、会議成立の定足数を満たしておりますことをご報告申し上げます。

それでは、議事 1 につきまして、新しい任期となりますので、委員長 1 名と副委員長 2 名を互選により選任いただきたいと思います。立候補や推薦の方がいらっしゃいましたらお願いします。それでは事務局から提案させていただきたいと思います。委員長に佐々木委員、副委員長を市原委員と斉藤委員にお願いしたいと考えております。ご異議ございませんでしょうか。(拍手) ありがとうございます。佐々木委員、斉藤委員、よろしくお願いいたします。

それでは、ここからの議事の進行は委員長にお願いしたいと思います。佐々木委員長、よろしくお願いいたします。

佐々木委員長

はい。よろしくお願いいたします。会議の公開についてという部分は、事務局からでいいですか。お願いします。

宇根班長

(資料を促す) 本会議は地方自治法第 138 条の 4 第 3 項の規定に基づき設置された市の附属機関となるため、資料や議事録等が原則公開となりますが、会議の公開・非公開については各審議会で決定することとありますので、初回会議となります本日、審議をお願いいたします。なお、会議を公開しないとされる場合のうち、(1) の香美市情報公開条例第 6 条は 3 ページ、4 ページに添付しております。8 項目ありますが、主に法令等で除外されている場合、個人情報保護に抵触する場合は非公開となります。

会議内容について、原則公開でよろしいかご審議をお願いいたします。

佐々木委員長

はい、説明が終わりました。質疑でいいですか。

福田委員

公開というのは議事録の公開は当然として、会自体の公開ということもおっしゃっていますか。それなら例えば「やるから来てね」という・・・

宇根班長

会場の都合もあるので傍聴人数は限らせていただいておりますが、社会教育委員会のホームページや総務課ホームページでは公開して傍聴できるようになっています。

教育振興基本計画の検討会には傍聴の方がおいでしています。

佐々木委員長

原則公開ということで・・・よろしく願いいたします。

それでは議事 3 で第 2 期香美市教育振興基本計画について、事務局から説明をお願いします。

(事務局説明)

佐々木委員長

はい、長い説明をありがとうございました。今年度から 10 年間ということで、令和 6 年度から令和 15 年度 2033 年までということで、途中見直しが・・・けれども、こういった計画、第 1 期の香美市の教育振興基本計画を発展させていくということで、立派な計画が出来上がっております。皆さんのほうから忌憚のないご意見をいただけましたら。事業の実施の時にまた現場に・・・いけると思いますので、・・・どうぞ。

永野委員

質問で教えて欲しいのですが、43 ページにある市民協働による学びの場の充実ということで、今はコミュニティスクールといって学校教育班が中心となってやっている部分に関して、今後は社会教育委員が関わっていこうとしていると思うのですが、具体的に生涯がどんな関わり方をしていこうとしているのか、あまりにも抽象的すぎて分かりにくいので。実際に私は運営協議会として小学校、中学校で連携協議会も関わらせてもらっているのですが、今まで一度も社会教育としての観点から生涯さんが入ってどうこうするということがなかったので、どちらかというと学校教育の担当の人間が来て話を聞いてどうこうすると話をしていたので、どういう関わりをしてくのか。

宇根班長

運営協議会は学校班が主体で取り組んでおり、コミュニティスクールができる時に、学校運営協議会の設立とか協働本部の設立と併せてだったので、その時は学校班が主体で実施してきました。昨年から地域学校協働本部が生涯学習の事業として、研修だったり、協働本部コーディネーターの養成だったりを取り組んでいます。コーディネーターさんとの関わりが大きくなってくかとは思いますが、学校へ聞き取りに行ったり、研修に一緒に行ったり、ということで協働本部活動が円滑にできるようということに関わっているということです。

永野委員

実際に僕が思うのは、コーディネーターさんは小学校に根付いて地域に根付いている人

なので、ゆくゆくは公民館の館長をやってもらったら一番いいと思います。地域も知っているし。前から社会教育委員会で話をさせてもらったのですが、せっかくいい人材がいるのにそれをもう辞めるからと言って野に放してしまっただけで新たに人を探すよりは、その方々に最終的には公民館なりを引き継いでもらって、次世代の新しい人たちを集めてもらえるような人間になっていただいたら、保護者間ともつながっているし、地域ともつながっているし、一番すぐにでも核になっていただける方々なので、そういった・・・をもってコーディネーターさんの育成もしてほしいなと思います。小学校や中学校に行っているコーディネーターさんもゆくゆくはそんな形でやってもらえないかという話は、運営協議会の中からは出ています。地域の人たちがいてくれた方が助かるので、ぜひ市としてもそういう考え方をもってもらいたいと思います。

もう一点、工科大との連携という話も出ていますが、こちらについても新しくデータイノベーション学群ができて、2年の後期からはそれぞれが研修というかたちで出ていくわけです。いろいろな形で出て、協働して新たなものを作ったりしていく、県立大みたいに地域の活性化とかそういうのではなくて、もっとしっかりとしたデータを活かしてそれに基づいたものに関して、自分たちがどう関わっていけるかということをしつかりと根拠づけをしながらやっていきたいという考え方で、市長に学部長から提言をしに行ったりしているのですが、教育委員会なり生涯にそれを受け止めてくれるところはないでしょうか。あればすぐにでも学部長を連れて行くのですが、今のところ全くそういう装いがないので、今は市長のところまで止まってしまっただけで、データイノベーション学群は30くらいに分けましょと、そのうち10個は香美市に下ろしますよと、はっきり言ってくれているのです。3〜4人の10グループの子どもたちは香美市のために協働できることはありませんかと言ってくれているのです。もちろん教育委員会だけではないです。第一産業であつたりいろんな産業にそういう形で入っていこうとしているので、ただ教育が一番成果が数字で見えてくるところなので、学部長も協力できる場所があればと考えておられるみたいですが、どこが受け入れてくれるのか、どうしたらいいのか、連携、連携という話は出ていますが、実際に動こうとするとどうすればいいのかわからないのですが。そのあたりはどうですか。

福田委員

シンプルな話、データをきちんと活用したうえで新しいものを作り出そうということでイノベーションという言葉をつけたのですが、最初の段階から市役所の中のデジタル化、市役所の中のDXを進めようということで、最初から市役所もやってねという形でターゲットになっているんですよ。それから、市長で止まっているのかどこまで落ちているのかわからないですが、確かに教育関係もDXというのであれば、前から言っているデータベースの関係から次のステージへ進むところなのでお手伝いできる場所があると思うんです。市役所の中でどこまでそういう声掛けが行われているかわからないです。企業さんとかはまちの商店街でこんなことをやってほしいあんなことをやってほしいということですので動いているんですが、せっかくだから香美市で、できれば市役所の中でDXというところから始めればと思いますが、課長これまでにこの話を聞いていましたか。

小松課長

今聞いたところですが、いただいているお話を市長にも確認して、自分たちでどんなことができるのかを考えていきたいと思います。

永野委員

例えば、農林課では、農業委員会といえば田んぼとか畑とか、まだデータ化し終わっていないんですよ。紙ベースが非常に多いので、そういった部分と一緒に入ってもらってデータ化して、それをどういうふうに活かせるかを作っていきましょうという話を具体的に農林課のほうでは進めていこうとしています。それは市長から農林課を通じて僕に、僕は第一産業の人間なので話を進めて、今月 27 日か 28 日には第 1 回の分科会も開いてやろうかという話も進めているんですけど、そのほか全く動きがなくてわからないので。学部長も地元の香美市でぜひそういう部分にしっかり関わらせてほしいという考え方なので、ぜひ一度市長に聞いていただいて。ほんわかな連携じゃなくて、がっちりした連携をさせてくださいという話をしていただいているので、香美市のためにもなるし、ゆくゆくはその子どもたちが卒業して即戦力として使える人間として動ける人間を作りたいというのが工科大さんの考え方なので、そこら辺はお互いできる可能性もあるのでいいと思います。

宇根班長

その各チームむは、テーマはありますでしょうか。

永野委員

・・・こういう課題があります、こういうやり方をしていきたいけどどうだろうか、というのを示してあげないと。自分たちがこれをやりたいと上がってくるものももちろんあります。けれども基本的には香美市の業態としてこういうことが足りていないから、こういうふうに手伝ってほしいとか、そういう部分に関してじゃあこのチームはここへ行きましょうという形で手を挙げてくれるようになるのではないかという話ですが、福田先生どうですか。

福田委員

年間で 10 チームが会社であったり組織であったり商店街であったり、というところに連携してその子らが卒業するまでの 4 年間べったりやって成果を出していく。早いものは 1 年で成果が出るものもあるし、4 年かかるものもあるし、という形でやっているのですが、それが 1 学年 60 人なので、6 人ずつの 10 チーム。これが 2 学年目になるとまた 10 チーム増えるわけです。最終的にマックス 40 チームが高知県下で活動するという仕組みです。ただ単に使い勝手のいいお手伝いになるのは嫌なので、かなり徹底的に綿密に打ち合わせをさせていただいて、学生も含めてですけどやれることやれないことを、要はイノベーションを起こさないといけないので、何のイノベーションを起こせるかということなんです。最初からイノベーションを狙ってやるものもあるし、逆にデジタル化から入って問題発見、解決までもっていった最終的にイノベーションというやり方もあるでしょうし、それぞれによって違うので何とも言えないのですが、市役所の中でも、県庁の中とか、そういう公共の団体とかも声かけていただいているし、企業さんが考える領域で手をあげてくれて、

今年やる 10 の組織は大体決まっています。次は待ってと、来年の新しいチームに入ってくださいという感じで行っているんで、早くにこんなことがというのが出てくれば、それだけ、できるだけ香美市にも思っているところがあるので、特に 1 年生は同じようにここにすることになるので、今回は建物の関係で 2 年生もいますけど、1 年生は・・・いるのでやりやすいですね。そんなのも含めて・・・一緒に香美市の中でイノベーションを起こせるものがあつたらなという感じ・・・

小松課長

来年度に向けて、香美市の中で問題を洗い出して、マッチングしていくような形でしょうか。

福田委員

そうですね。

永野委員

例えばですよ、今までできてなかったまちの先生とかいう、データ化できてなくて社会教育、生涯教育と、学校教育が連携も何もできてないまま宙ぶらりんになってどれくらいのニーズが集まったとかそういうのもできてない。ここで言っていたコミュニティの人たち、そういった人たちのすべてのデータ化ができて、だから自由にそれを引き出せて、他の小学校から「こういう人がほしいけど」といった時に生涯へ電話すれば「こういう人がいる」と・・・引き出しを作ったりするようなことを今までやりませんかと何回も福田先生がおっしゃっていたんですが、それなんかと一緒に考えていただいてやるというのは一番社会教育の中で手っ取り早い、それを課題にするというチームが出てきてくれば一緒にやらせていただいてどういう方向性で最終的にどういう活用ができるかまでやっていただいたら、しっかりとした形ができますね。

福田委員

デジタル化だけなら 1 週間もあればできる。だからそれで終わると面白くないわけですよ。

永野委員

そこから先の活用方法ですよ。

福田委員

先を行って先でイノベーションを起こせるとか、それこそずーっと言い続けて実現できてないのは「よってたかって」と言いながらもよってたかれてない、よってたかれるようなシステム作りであるとか、まちの先生を核にしてどんどん広げていくとか、そういうところで、これがまちづくりの新しいやり方なんだね、というようなイノベーションが起きれば、それが香美市だけじゃなくて、高知県だけじゃなくて、全国に向かってこういうやり方でまちづくりが進められるというところに繋がるかなと。どちらかというと情報

系に強い子が多いので、まちづくりとかほわっとしたところじゃないんですけども、何か考えたらできるかなという気もします。それと切り口が違うのがついでの話で申し訳ないですが、県立大学は地域をデザインし直すというところで、実は公民館活動に使えるんですよ。今日は持ってきてないですが、今、認知症カフェというのを高知市のまちでやっていて、それは場所の関係があるのでうちの大学でやっています、永国寺で。ところが、この認知症カフェとかはいろんな先生が来てくれていろんな話をしてくれるんですけど、これこそ公民館活動に“ぼっち”なんですよ。それとか、健康とか、栄養学とか、看護の子もいっぱいいるので、文化学部の子は文化財の話とかいっぱい使えるので、昨日たまたま向こうに出勤していたので、明日行ってみんなに話してくると言ってきたんですけど、それこそいろんなことが可能なので、工科大はどちらかというと理系的な部分では絡めると思うんですけど、文系、医療、介護、福祉みたいなところはここの出番になるので、後で渡しますが、結構がちがちでやっています、いろんな講師をお迎えして。これはどこでも展開できるので、講師が来ればいいだけなので、香美市はまず中央公民館でやってみるとか、明治の公民館でやるとかいうのなら全然やれますよというお話もあって。だから大学を上手に使うと楽になりますよというお話だと思うのですが、ネタにも困らないし、ということになるかなと思っています。去年、前課長がこの会に一回来てくれているんです、視察のために。何しに来たかと問えばネタ探しと言っていました、そんなのも自然に健康になるまちづくりとか、これも生涯学習のスポーツが絡むんですよ。だから産学連携の健康まちづくりとかいうのもあれば、これ結構いろいろ面白いことをやっていて社会的処方、地域の中で健康でずーっと、特に医療から何からやらずに人間関係だけで健康になる方法とか、それこそ生涯学習とかそういう我々が扱うものに割とマッチするんじゃないかな。活動拠点としての公民館活動を香美市はいっぱい持っているわけなので、という話があってちょうど繋がったので。それで工科大にDXをやってもらいながら、まちづくり系を県立大学に助けてもらったら、これは“こじゃんと”楽にいろいろできますよというお話です。すみません、ちょっと宣伝してしまいました。一応、高知県立大学学長をのせたチラシもあるので、後でお渡ししますので見てください。

佐々木委員長

はい、様々なヒントを皆さんからいただきましたので、また整理をしながら。特に市役所のほうでは紙ベースがまだまだ残っているので、そこら辺も含めてどうしていくかというところも今後の災害に備えて必要になってくると思います。なお生涯学習振興課で切り開けるところはどんどん切り開いていただきたいと思います。よろしく願いたいと思います。他には皆さんのほうから・・・

福田委員

ひとつ、正木先生構いませんか。中学校の部活の指導の話なんですけど、今ヒアリングして調査してという話だったじゃないですか。ニーズってあります？

正木推進官

最初はやっぱりクラブの指導は先生でやれますという話をされていました。実際に回っ

ていくと先生方が多忙で、顧問はいるんだけど顧問がきっちりついていられないと。だからしてもらえたらありがたいとはなしはありましたが、これとこれをいただきたいというのはでてこなかったところです。

福田委員

それで出たのがこの吹奏楽部と卓球部だと。この指導者のレベルはどれくらいを求められますか。卓球部とかなら、うちは全国国公立トップなんですね。全国で私立を入れてもベスト 8 には入るんです。その子たちで教員になりたい子はいっぱいいるんです。勉強のために週 1 日ずつ交代で行ってこいといえ、先生になりたいという部分とうまくマッチングできるし。ちなみに野球部の先生になりたい子はいっぱいいます。いくらでもお手伝いに行かせます。ちょっと何か仕掛けられたら。生涯学習とはちょっと違うことになりそうですけど、学校教育かもしれませんが、ただやっぱり生涯スポーツという部分でいくと、すごい剣道の達人とかおられるじゃないですか。あの人たちがジュニアとかに絡めていったらいいのにと思ったりしたんですが。

正木推進官

ゆくゆくは地域移行に近づかないといけないので、山田高校からもバレー部に来てもらったり、工科大の学生にも来てもらったりして指導してもらおうという方向を考えていかないといけない。予算の関係もあるので今はこれくらいですが。ありがとうございました。

佐々木委員長

はい、他にはありましたらまた後ほど質問の時間を取りますのでよろしくお願いします。続きまして 4 番の香美市立図書館運営方針とそれに基づく運営計画について、説明をお願いします。

(事務局説明)

佐々木委員長

はい、図書館の説明をいただきましたが、何かご質問はございますか。

濱崎委員

ちょっとお伺いしたいのですが、かみーるの駐車場はだいたいどれくらいで実現しそうですか。

宇根班長

駐車場は用地の購入や補償費の算定に予定よりも時間がかかりまして、本年度に入ってから用地購入になりました。補償物件の移転を夏までに終えていただく予定になりましたので、その後の設計となります。可能な限り年度内にとは考えて事業を進めていますが、年度内に確実に工事まで完了するかどうかは不透明になってくると思います。あと、埋蔵文化財の包蔵地になっていますので図面ができましたら県へ開発の届け出をしてご意見を

いただく必要があります。試掘のみとなれば速やかに工事着手できますので年度内かなと思いますが、状況次第で来年にかかるようになるかもしれません。

濱崎委員

それともう一つ。結構利用者が多くて、駐車場の問題もあるんですけど、祝祭日の開館というのはなんとかならないものか。例えば公民館は、土日はシルバーさんに来ていただいて、図書館という特殊性は当然あると思いますが、そのへんの・・・司書の方も結構いらっしゃるのそういう人材を使って何とか、祝祭日の利用はニーズとしては結構あると思います。その辺も考える必要があるのではと思います。

佐々木委員長

当然、職員の配置ということが必要になってくるので、そのあたりを一つの課題として、土日はやっているんですよね。祝日と月曜日が休みですよね。祝日と月曜日が重なった場合はその一日だけになる・・・

・・・(聞き取り不能)

濱崎委員

とにかくいろんな方法を考えて前向きに考えていただきたい。

小松課長？

わかりました。研究してみたいと思います。

佐々木委員長

そういう市民からのニーズがありますので早速よろしくお願いします。

福田委員

駐車場ってどこを買うんですか。

(東側の線路迄の間)

福田委員

裏からぐるっと回れる？前から入れる？

佐々木委員長

前からは段になっているので入れない。回って入るようになる。出入口は一か所のほうが交通事故も少ないのでいいと思います。

福田委員

いつもいっぱいだなと思っていた。二階建てにすればいい。あそこなら四階建てくらい

まで建つ。

佐々木委員長

しっかり埋蔵文化財を調査したうえで駐車場をよろしくお願いします。ちなみにちょっとお聞きしたいのですが、この有効登録者は貸出利用された人だけでしょうか。例えば図書館に來られて閲覧されて帰る方はカウント外ですか。

山重統括官

入館者数というのは機械で取っているんですけど、閲覧数は本棚においてあるのをご覧いただく数は数えようがないので直接はわかりません。ただ、入館者数は機械でカウントしているのでわかりますが、出入りをカウントしていますので、あんまり正確な数字にはならないところはあります。

佐々木委員長

一応目標値としてはいわゆる貸出利用のある方ですか。はい、わかりました。他に皆さんのほうから、ありますか。

福田委員

貸出利用をしないのにカードを作ってる人がいますか。

山重統括官

最初は作って最初のうちは利用しているんですけど、来なくなっているパターンがやっぱりあって、それにはいろいろ原因があるんですけど、年間だいたい 8 万点くらい出て平均単価 2,500 円くらいなので、作業も減ってますけど・・・オーテピアも半分くらい、4 割です。だからどうしても高知のニーズは様々なので予算が八百何十万程度なので・・・もうちょっとあったほうがいいかなと思うんですけども。

福田委員

ないから借りないんですかね。

山重統括官

やはりすべての分野をカバーは、難しいです。

福田委員

いや、そんな必要は全くないと思います。これだけネット社会になってきたし、全ての分野をカバーするという考え方のほうが逆に僕はおかしいと思うので。全然必要ないですが、来て、新刊が、新しい本がないから借りないのか、「こんな本ないですか」といって探しに来ているんですか。

山重統括官

両方ですね。新刊ばかり借りに来る方が結構いるんですよ。

福田委員

もちろんそれは僕はいいと思います。・・・

山重統括官

それから、あんまりないからっていう人もいるし、自分の興味ある分野が少ないので、

福田委員

もう読み終わったから来ない、とか。

山重統括官

あとは自分の興味ある分野が専門的で、高知県に限らず全部そうなんですけど、結構医療関係の本が、高度なもののニーズが上がっているんですよ。

福田委員

それはもう自分で買ってもらったらいじゃないですか。そこまで僕はお付き合いする必要はないと思う。

山重統括官

医療関係は相当高価なので、

福田委員

だからお付き合いしなくていいと思います。

山重統括官

なぜそれがわかるかというと、オーテピアで借りた本を香美市の図書館で返せるんです。そうすると、・・・貸しっぱなしの方が結構いらっちゃって、だいたいその本が医療関係なんです。かみーも入れてますけど圧倒的に高知県立図書館の方が多いので、香美市にお住いの方でその関係に従事している方もいるのでニーズとしてあるのはわかっているんです。

福田委員

それ従事者が借りるんですか。従事者だったら自分で買えばと思いますが。もっと我々がちょっと行って借りるためのものが図書館なのかなというところがあって、どこまでその専門の人に近づけないといけないのか。それは市民の一部ですよ。

山重統括官

多分、ご自分でも買ってると思います。

福田委員

だと思います。だからそれでいいのかなと。ちょっと気になったのは、香美市の人は 4 冊。香美市以外の人が入ると 5.4 冊。どうして。

山重統括官

それははっきり言うと、今現在かみーるの図書館はちょっと突き抜けてます。南国市は今計画していますが、だから新しい図書館が出来たと思うとみんな車に乗って来るんです。

福田委員

来て、借りる冊数は、香美市の人は 4 冊だけど、

山重統括官

平均したら、ですよ。

福田委員

平均でいいですよ。それ以外を加えると 5.4 冊になるのは、それ以外の人 が 7 冊も 8 冊も借りているってことじゃないですか。

山重統括官

はいそうです。

福田委員

なぜ。

山重統括官

だからそれは今、南国とか香南の図書館が今は若干貧弱なんですよ、香美市に比べて。本が好きな人は大量に借りていくので、それで平均を上げているので、

福田委員

そういうことか。好きな人はいっぱい借りているから。香美市の人は本好きがいない。

山重統括官

いやそんなことはない。

福田委員

全体的にそう見たんですよ。香美市の人は 4 冊だけど、他の人は倍ぐらい借りる。

山重統括官

そこは高知県香美市だけの問題じゃなくて、全国的なデータで言うと、文化庁がこれに

関する調査を毎年行っているんですが、だいたい・・・に関する調査を行っていて、それによると日本の大人、16 歳以上は、月に 1 冊も読まない人が半分くらいいるんです。先進国とか欧米諸国の中でかなり読まないです日本は残念ながら。だけど出版大国なんです。世界で 4 番目くらいに本を出しているんです。なぜそんなに出版大国なのかというと、逆に言うと読んでいる人がかなり大量に読んでいるということなんです。

福田委員

そこはわかる。香美市民が 4 冊でそれ以外はたくさんていうのは、ズバリ言うと香美市民の読書率が低いということですか。やるべきことは香美市民にもっと読書をしましょうという活動じゃないですか。

山重統括官

それをしたいから香美市の率を上げたいということです。

福田委員

どうやって上げていくかっていうところなんです。逆に言うと、僕らが知りたいのは。データではわかりますけど、香美市の人は本を読まないんだったら、香美市の人にもっと本を読んでもらうような仕掛けというのを作っていかないといけないと思うし、

永野委員

香美市の人間は、30 代 40 代 50 代、香美市の図書館、前の。そうするとそこまでわざわざ行って本を借りてどうしようなんて考えがないので、子どもと図書館を使うという観点がないんです。同じ PR をしてくれるんだったら、保護者を一緒に巻き込んで子どもを連れてこれに行かなきゃいけないような形の PR をしてくれると、保護者も「図書館でこんなになっているんだ」と、いまだにかみーるに行ったことがない。あそこって子どもだけでは行けないですよ、郡部だから。近くの楠目であつたり山田であれば自転車で行ったりできるが、片地とか他の郡部というのはやはり親の手を借りて行くとか、何らかの方法で行くしかないので、バスから降りてもバス停から遠いですよ。だからそういう部分でもし PRするのであれば、保護者も巻き込めるような PR をしていただければ、保護者の方々に香美市の図書館をもっとわかってもらって「こんなに蔵書があるんだ」「こんなことしてるんだ」というのがもっとわかりやすいのかなと僕は思う。そうじゃないと、僕はたまたま社会教育委員なので、行って第一産業の農業を見て「農業の本少ないな」と思いながら、自分で専門書を買って、自分は元々本が好きなのでそうするんですけど、一般の方々は基本的に仕事をしながら帰ってきて本を読む時間があるか、それよりはこれ（スマホ）をしたほうがまし、こっちのほうが早いので。欲しいものをそのまま読めると言ったらこれ（スマホ）しかない。それを考えたらわざわざそこまで行って何かをしないといけないという動作を起こさせるような PR の仕方や仕掛けを考えるほうが。僕は年代が上ると 60 代からまた増えてくると思うんですよ、図書館を使う率が。けれど 30～50 代は働いていて、実際勉強しないといけない、社会教育とかいろんな勉強をしないといけないところが、本を読むとかそういったことができてないのが現実なので、そういう仕掛けをしてもらうの

が一番、香美市として上げていくのにはいいのかなと感じました。せっかくいい箱ができたので。

福田委員

だから本を買うよりまずかみーるを使ってもらう、申し訳ないけど僕は仕事以外に行ったことがないですよ。僕はそれよりもブックオフに行く頻度が高いので。永野くんの意見に出てきたけど、年代別の数は取れないですか。

山重統括官

取れます。ただ、家族でカードをごっちゃに使っている人が多いので、

福田委員

貸し出しの分だけですよね、それは。だから入ってきた人の年代は。

山重統括官

それはわからない。出入りは機械がカウントしているので。

福田委員

そこなんかに DX が使えるんですよ。

山重統括官

ちょっと個人情報の問題にかかってきてしまう・・・

福田委員

カメラを付けておいてカメラで年齢性別分かるんですよ、今。商店街はそれをやろうとしています。入り口につけておいて、どんな年代の人が何時ごろに来るのか、その時の売り上げは各店舗どうなのか、そしてこの時間帯にはこういうお店にこういう商品を持っていったらこの店に入りますよね、同じようにどういう人が何時くらいに来るというデータが取れば、それに合わせた何かのイベントをうつとかいろんな考え方もできるので、そういう使い方もできるんですよ。データとかデジタルというのは。なんかちょっと悔しいなと思って。それでバスは、コミュニティバスはあの前に停められないのですか。

宇根班長

ぐるりんバスが停まってますけど火・木・土です。

山重統括官

毎日じゃないですけど火・木・土に。その日は1時間おきなので・・・

永野委員

火・木・土って子どもは使わないですよ。

福田委員

そう。火・木・土にした理由は何ですか。月・水・金はどこにいった。

杉本委員

初めて参加したのでわからないんですけど、市立図書館で子どもが使わないって言ったんだけど、子どもは学校に図書館があるんじゃないですか。

永野委員

もちろんあります。

杉本委員

それで、30代40代の人って忙しいから本を読む暇がない、私に言わせればそんな人を対象にすることはない。わざわざ図書館へ来る、5日間仕事をして、あと2日は30～50代の人には子どもを見たり他にすることがあるから、子どもと一緒に図書館へ行くなれば別だけど、私は子どもと一緒に図書館へ行く必要はないと思っています。子どもは学校の図書館を利用すればいい。今ある市民図書館はやっぱり年寄りを対象にすべきじゃないですか、60～80代、私はそう思います。どんどん若い人が減っていく、もちろん年寄りも死んでいきますから減っていくんだけど、やっぱりもうちょっと60以上の、要するに仕事を離れた人たちが、私は退職してこちらに帰ってきて18年目になるんですが、図書館に行ったのはまだ向こうに移る前に、何を調べに行ったのかももう忘れてしまったけれど、それで今のところになってから2回、1回目は新しくできましたよということで、どんなものかなということで見に行きました。2回目はほんのこの前ですけども市の広報の中でちょっと見たいものがあった、担当課に行けばあるかと思いましたが、図書館で探して歩いたけど分からなかったのでも人に聞いて案内してもらって、そういう点ではよかったと思うんです。やっぱりそこで見た時に、どちらかというと・・・若い人が多いですね。お年寄りはちょっとはいたような気もするけど、だけどやっぱり私は60以上、すなわち常に定職を持ってない人を対象とした図書館・・・、そのほうがニーズが多いですから。それともう一つ、本の貸出で香美市の人が少ないとよそから来る人が多く借りている、これは当たり前のことであって、どういうことかということ、本が欲しい、借りたい、そう思ってわざわざ行くわけですから1冊2冊借りるよりも自分の欲しい本があったら何冊かまとめて借りて行く、おそらく1冊1冊読んでまた返してみたいな、当然ニーズというのはそういうものを若干加味しないと、ただ単によそから来た人がたくさん借りているからおかしいというのはないんじゃないかなと。香美市の人だって4冊借りていれば昔は・・・大したもんだなと思うんですけど。それと私はただ行って入って出てきただけだから、自動カウントされていれば頭数には入っていると思うんですけど、そういう意味では登録も何もしてないし、そんなことをするとも思わなかったから、本を借りようとも元々思わなかったから。だから自分が欲しい本は、先ほどの専門書うんぬんの話じゃないですが、自分で買います。あとそんなに自分が欲しい専門的な本を図書館で借りるっていうことはないですよ。どっちかというと、歴史と地域の関係かなと・・・思い出した、1回目に行った時はそれこそ香美市に

関係している場所を調べに行って・・・やっぱり私はそんなような気がします。

佐々木委員長

はい、ありがとうございます。一旦ちょっと止めますので。質問はのちほどお願いいたします。

その他の文化財室の設置についてを事務局から説明をお願いします。

(事務局説明)

佐々木委員長

はい、事務局から説明をいただきました。旧佐岡小学校の 2 階ということですね。単独でそこで動いていくということですね。何かご質問がございましたら、

福田委員

前の、山田・香北・物部の頃っていうのは、いつ頃に作っているんですか。興味だけで聞いています。

依光室長

香北が平成 17 年、合併ぎりぎりのところで発行しております。山田と物部が 50 年代中ごろで止まっています。ですから、山田と物部の空白期間がおそらく 20 年余りあるというのが現状です。

福田委員

本当に早く作らないと、知っている人がいなくなりますね。

佐々木委員長

その三つをすべてトータルして・・・

依光室長

作り方いろいろあるんですけども、私の案としては空白期間、合併までをひとつのくり、それから新市になってからの歴史の部分を作って、それから資料編の 3 部構成としたい。一つモデルになっているのはいの町さんがうちと一緒に 3 町村が合併して一つになっております。ここもばらばらの合併で時期もずれていたものをまとめて作成されておりますので、中山間エリアでもありますし、地形的問題も似ておりますので、そこを参考にしつつ、市長からは他の市町村のいいところを取り入れるようにと言われておりますので、土佐清水市さんであったり安田町さんであったり、他の市町村で取り組みをされているところがありますので、その市町村に対しましてインタビューをしていくようにしているところです。

佐々木委員長

はい、文化財室、埋蔵文化財という話が先ほど図書館でも出たので、そちらではなくて、市史の編さんという部屋ですね。

依光室長

埋蔵文化財も一緒にやっています。かなり大変で、存外文化財があります。・・・包蔵地という言葉ですね、文化財、遺跡があるんだよというところが、この三町村、山田・香北・物部、特に山田にどっさりあります。そこで例えばお家を建てようとなるとまず住宅メーカーが包蔵地かどうかの問い合わせをしてくれます。これが週に1回問い合わせがあります。以前は県の登録システムでインターネットに公開していたんですけども、県が公開をやめていますので、すべての問い合わせがアナログで電話なりという状況で、また、生涯へ問い合わせがあったり、生涯を経由して問い合わせが来るという形でしています。文化財への指定も、前に言っておいたがどうなっているかという案件も湧いてきて、それに対応しているのが日々の状況です。

佐々木委員長

当然、不動産取引の世界では埋蔵文化財の包蔵地であれば価格が下がるのでプラスアルファの部分が必要になってくるので、買った本人が負担をしなくてはいけないというのが法律であったと思いますが、その辺に非常に詳しい教育委員さんがいらっしゃるのでそちらにご意見をお聞きしながら進めるようにしてください。なかなか1件文化財の調査を始めると3年とか5年とかってスパンがあるので大変だと思いますけど、よろしく願いします。何かご質問はございませんか。会全体で何でも結構です。

信崎委員

香美市立教育研究所は、香美、香南市の教科書センターを兼ねています。大体4年に一回教科書改訂となっていて、今小学校が使い始めの一年目、中学校の改定が今年度、その次また高等学校と続いて行きますので、常に見本が毎年その度々に市教委に届けられます。これまでも図書館に届いていると思いますが、今後もきっと届くと思いますのでご活用いただけたらと思います。それから発達障害関係につきまして研究所でもテーマとして研究しているところがありまして、書籍を研究所でも持っております。またデータ化できて、図書館とそちらにはないけれどこちらにはあるなど連携していけたらと思っておりますのでよろしくお願いしたいと思います。ありがとうございました。

近藤委員

一つ目、図書館で、ターゲット層が多いところを狙うのはその通りだなと思いつつ、自分自身が子どもの親でもあるので、できれば子どもに本を読んで欲しいという思いが強くて・・・自分も好きなので、子どもも動き回って自分で好きな本を選んでくるっていうことをして勝手に読んでいますので、だからそういう経験はしてもらいたいと思うんです。親子へのアプローチはぜひやってほしいと思います。もう一つ、各学校で探究学習をされていると思いますが、そういうきっかけで自分がやってみたいと思ったことを、図書館へ連れて行ってその本を見つけてその本を持って帰って見ながらやるということもやってい

たことがあったので、そういう使い方もできるよというのが広がったらいいなと思いました。それが図書館のことで、もう一つはこの教育振興基本計画に関してですけども、これはこういうものだと思うので、これ以上何かを求めるということではないのですが、こういう立場で見るとすごいいいものができたなと思うんですけど、一市民としてみたら「へえ〜」で多分終わってしまう、自分事にはなかなか落ちて行かないと感じるところがあって、自分自身が情報発信をあらためて、もっと伝わるようにしたいと思っているところなので、違うかもしれませんが、今回よってたかつてのフォーラムの結果を見ると参加団体数がすごく増えているということは、地域で何かやっている人がここに出てきてくれたということだと思って、それを市民がこういうことをやっている人をどんどん見つけてきて、このフォーラムに放り込むっていう流れができればそれを外に発信していくことにつながっていきそうな気がするので、何かそういう面白い人をどんどん見つけて放り込むみたいなのところを・・・力を入れられたらいいと思いました。

佐々木委員長

はい、ありがとうございます。斉藤さん、初めてだと思うので何かありましたらお願いします。

斉藤副委員長

そうですね、私も意見というよりは感想になってしまいましたが、まず図書館の運営方針や運営計画に関わっては確かに悩ましい部分はあるんですけど、他の委員さんのご意見を聞いているなかで、そもそも 5 年後の目指す指標であるとか目標を一から見直したほうがいいのかなということを、委員さんの話を聞いていて思いました。やはり単純に資料の貸出点数だけで見るとどうしても香美市民がなんで少ないんだという話になると思うんですけど、ただ近藤委員さんがおっしゃっていたように、実際に資料は借りないけれども図書館で充実した時間を過ごしている親子も絶対いるはずですし、そうした実際の利用者の質をもうちょっと捉えられるような指標とか目標設定ができれば、より実態を掴めるのにも思いました。それで、的外れな意見になるかもしれませんが、例えば図書館の一年間の利用者数を香美市民の 10 倍の人口に設定するとか、つまり一市民が年間に 10 回図書館を利用するとかっていうことを一つ目標に設定するのもいいのかなと、実際にどう利用されているかその中身までは見えませんが、市民からこれだけ愛されているという一つの数値にはなるんじゃないかと思いますので、市民の中のファンであるとか愛され度を測る指標にはなるんじゃないかなと思った次第です。それから、教育振興基本計画については、本当に素晴らしい出来で、私には特に指摘することはないんですけども、一点お聞きしたかったのがよってたかつて生涯学習フォーラムが平成 30 年から始まっていますけれども、どのような背景とか理由で始まったのかなと。こんな素晴らしいイベントをもっと 10 年、20 年も前から行われていたかと思ったのですが、意外と最近始まったなということで、ご存じでしたら経緯を教えてくださいという質問です。

正木推進官

元々は子ども会議みたいな、子どもが集まって香美市をよくするために何ができるかと

いう集まりがあったんです。その中から集まってイベントをしようじゃないか、香美市の歌を作ろうじゃないかという子ども目線の発想があって、それをよってたかって生涯学習フォーラムという冠をつけずにやっていたんです。それから香美市全体でやっているイメージを付けてイベントを興したらいいんじゃないかということで当時の教育長や教育関係の方が考えて平成 30 年に第 1 回目が開催された。でも実はその前に子どもたちの取り組みがあったということです。名前ができたのが平成 30 年だということです。

福田委員

ちょっと一つだけ補足していいですか。その前にやっていた協議的な部分で言えば、香美市つれづれフェスタというのをやっていました。開催は高知工科大学でして 1 回目の感動的な発表が始まって、市内の小中学生がそれぞれみんな自由研究ですかね、探究と言うよりは。それを持ち寄ってそこで発表するというのを何年間かやって、それで子ども会議の中で自分たちがイベントをやりたいということで、日曜市のあたりでしたね、子どもたちが出店を開いたりというのがあって、その頃にちょうどラップするようによってたかって教育だということが言われ始めて、よし全部よってたかれみたいな話になって全部のばらばらだったものを集めて、生涯学習という冠を付けてパッケージにしたというのがこの流れなんです。そう考えると以前からいろんなことが動いていて、生涯学習に近いものとかを、コロナがなければもうちょっと別の展開があったかもしれませんが、やっとなに戻ったという感じですかね。

斉藤副委員長

子どもが実行委員会を組織して企画をされて。(そうです)

佐々木委員長

山田高校も、それまでは山田高校というのはなかなか入ることができず、一般の方はお断りという学校だったんですよ。門から入らないでくださいって。その時にこういう形で盛り上がりがあった時に開放しましょうということで、平成 30 年に第 1 回が、当時の教育長が全部をまとめようということでスタートしました。途中 2 回はコロナでやむを得ず中止になったんですが、またそれはそれでかえってまた一つの勉強にもなりましたし、よい展開がまた、今年の 2 月には参加の団体数が倍以上になってきたということで、はい。そういう経過がございます。また来年も 2 月 15 日に予定をされていますので、よかったですぜひ参加を・・・

斉藤副委員長

ありがとうございます。

信崎委員

よってたかってという言葉がどこから出てきたかといいますと、平成 25 年度に香美市でキャリア教育が始まりました。その時にどうもよってたかって教育の言葉の元になった・・・ということになりまして、教育に携わっているいろんな関係者の方に拠っていた

だいて、いろんな議論をした結果、香美市民がみんなよってたかって子どもの教育にも関わるし、お互いによってたかって学び合おう、そういう意味でよってたかってという言葉にしたらどうだろうかという発想が出まして、香美市の教育がよってたかって教育と呼ばれるようになっていったことが今に至っているということがあります。その中で子どもたちのために、香美市の宝を活かした教育を展開してもらいたいという願いもありまして、じゃあ子どもたちを集めて香美市を元気にするために自分たちがどんなことをしたいかっていうことを、小・中・高、大学生も入っていただいたんですけど、討議したところこんなことをやりたい、あんなことをやりたいということが出てきてその発展的な市民全体を巻き込んだ形が今、生涯学習フォーラムという形になっています。じゃあどこでやるかと、キャリアチャレンジデイは工科大で中学生が全員集まってスタートして、やっぱり工科大はどうだろうといきつつあったんですけど、山田高校が入ってきてくれていっそのことフォーラムを高校でやったらどうかという発想になりまして、山田高校にお願いして文化祭と一緒の日を設定し、今に至っているという・・・

佐々木委員長

よってたかってについては、それははじめの要素はないかみたいな心配質問もあったことがありましたが、そこはクリアをしていただいたようです。僕もよってたかってという形ですね、生涯学習の一つのテーマとしてみんなでやっていこうという意味ですので、決してよってたかっていじめるということではないので、ご理解いただいたらと思います。

福田委員

本当に、先生が質問してくれたおかげで、みんな振り返りができたと思うのですが、要は本当によってたかってをやるために、畑に看板を立てろとか缶バッジを作れとか、このバッジをつけている人には、畑をしているおじさんに子どもたちが「おじさんこれ教えて」と言えるような関係、子どもたちが疑問に思ったこと、それからもっと（知りたい）と思ったことを大人たちが答えられるような、まちの人みんなが先生みたいな、そういうところにまで発展させたかった、それがよってたかってなんですけどそこはできていない。その頃にちょうど学校の中にいろんな先生を見つけて、大人が入ってってということが始まって、だから学校が持っているデータベースは結構持っていて、市が持つデータベースとかその辺を相乗りしたうえで、とにかくみんなを先生にしてしまえと。お漬物を漬けるのが上手なおばあちゃんは漬け物先生だと、オクラを作るのが上手なおじさんはオクラ先生だという形でどんどんみんなが先生でそれこそみんなが生涯学習の先生であり生徒であり、それで子どもたちにみんなが何でも教えられるような、そんなまちづくりをしましょうというのが、よってたかって教育による探究のまちづくりっていうところなんです。これが全部ぶちぎれているので今。この流れがきれいに上流から下流まで行けば、どこもが真似できないものになると思うんですけど、・・・ところどころがきれいているところを上手につなぎたい。

永野委員

やっと今、小中学校の運営協議会の連携ができてきたので、大栃、それから香北、鏡野

校区というところも昨年度からでき始めて 6 月の広報には挨拶運動であったりとかを鏡野校区で進めていって、挨拶が当たり前、みんなが挨拶できるようなまちをつくりませんかということをアピールしていこうかなと進めています。これができれば、香美市にいれば誰でもという形の部分で、今は鏡野校区だけですけれども、香北であったり物部であったりを一緒にくっつけて大きな組織として、それができてくると福田先生と話していたまちの先生だったりそういったものがもっと作りやすい形になっていくので、今その基盤を作っているのです、それができてくればまた社会教育が進むかなと思います。

福田委員

社会教育でコーディネートすれば何でもできるので。

杉本委員

私は今年から文化協会の会長をすることになって、一番最初に思ったことはこのフォーラムと文化協会の関係は何だろうかと分からなかったんです。同じようなことがありましたので。文化協会の進め方もなるほどな、自分が描いていた未来図とはとはちょっと違うような感じ・・・

佐々木委員長

他にどなたか。では、事務局にお返しします。

宇根班長

ありがとうございました。それでは以上をもちまして令和 6 年度第 1 回香美市社会教育委員会を閉会させていただきます。本日はまことにありがとうございました。

(閉会)